地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和8年2月10日

協議会名： 東京都地域間幹線系統確保維持協議会

評価対象事業名： 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
西東京バス株式会社 丹波山村役場線「奥多摩駅～奥多摩湖～丹波山村役場」	・「奥多摩駅～奥多摩湖～丹波山村役場」を運行	・作成した沿線PR広告をホームページで公開し、沿線施設・店舗等の認知度向上を図ることで新たな顧客層の獲得を図った。 ・乗降実績を確認可能なシステムを活用し、利用の多い系統や時間帯で増回を、利用の少ない系統や時間帯では減回を行い、収入・支出の両側面から生産性の向上を図った。 ・各種イベントに応じた臨時バスを運行した。 ・沿線自治体と協議を重ね、自治体要望の把握と運行の効率化を図った。	B	災害等のやむをえない事由以外で運休便が発生した日はなく、事業は概ね計画通り実行されたが、需要減により臨時運行便を削減したため計画通りの年間運行回数は確保できなかった。	B	・令和5年度の収益率と比較し、1%以上の改善が見られなかったが、収益率が50%以上であった。 （令和5年度：55.1%→令和7年度：54.7%） ・観光需要を考慮した運行回数・運行時間帯・運賃の最適化を図り沿線自治体と協議を重ねたが、費用の増加に収益の増加が追いつかなかった。 【収益】 令和5年度：19，563千円 →令和7年度：23，312千円 【費用】 令和5年度：35，499千円 →令和7年度：42，602千円	・周辺自治体と協議を重ね、周辺地域を運行するその他系統も含めた地域全体の運行回数・時間帯の見直しを検討し、引き続き観光需要を中心とした旅客の取り込み及び経費削減を図る。
西東京バス株式会社 鴨沢西線「奥多摩駅～奥多摩湖～鴨沢西」	・「奥多摩駅～奥多摩湖～鴨沢西」を運行	・作成した沿線PR広告をホームページで公開し、沿線施設・店舗等の認知度向上を図ることで新たな顧客層の獲得を図った。 ・乗降実績を確認可能なシステムを活用し、利用の多い系統や時間帯で増回を、利用の少ない系統や時間帯では減回を行い、収入・支出の両側面から生産性の向上を図った。	A	災害等のやむをえない事由以外で運休便が発生した日はなく、事業は計画通り実行された。	A	・令和5年度の収益率と比較し、1%以上の改善が見られた。 （令和5年度：58.7%→令和7年度：69.2%） ・観光需要を考慮した運行回数・運行時間帯・運賃の最適化を図り、沿線自治体と協議を重ねた結果、費用の増加率を収益率の増加が上回った。 【収益】 令和5年度：19，408千円 →令和7年度：42，104千円 【費用】 令和5年度：33，060千円 →令和7年度：60，879千円	・周辺自治体と協議を重ね、周辺地域を運行するその他系統も含めた地域全体の運行回数・時間帯の見直しを検討し、引き続き観光需要を中心とした旅客の取り込みを図る。
西東京バス株式会社 数馬線「武蔵五日市駅～数馬」	・「武蔵五日市駅～人里～数馬」を運行 ・「武蔵五日市駅～払沢の滝～数馬」を運行 ・「武蔵五日市駅～やすらぎの里～数馬」を運行	・作成した沿線PR広告をホームページで公開し、沿線施設・店舗等の認知度向上を図ることで新たな顧客層の獲得を図った。 ・利用客の利便性を向上させ、バス利用を促進するため鉄道との接続について見直しを行い、鉄道時刻表を考慮した運行ダイヤの調整を行った。	B	災害等のやむをえない事由以外で運休便が発生した日はなく、事業は概ね計画通り実行されたが、需要減により臨時運行便を削減したため計画通りの年間運行回数は確保できなかった。	A	・令和5年度の収益率と比較し、1%以上の改善が見られた。 （令和5年度：53.0%→令和7年度：54.8%） ・観光需要を考慮した運行回数・運行時間帯・運賃の最適化を図り、沿線自治体と協議を重ねた結果、収益増加と費用減少の両側面で収益率向上に貢献した。 【収益】 令和5年度：63，333千円 →令和7年度：67，088千円 【費用】 令和5年度：130，803千円 →令和7年度：122，416千円	・周辺自治体と協議を重ね、周辺地域を運行するその他系統も含めた地域全体の運行回数・時間帯の見直しを検討し、引き続き観光需要を中心とした旅客の取り込みを図る。

西東京バス株式会社 藤倉線「武蔵五日市駅～藤倉」	・「武蔵五日市駅～小岩～藤倉」を運行 ・「武蔵五日市駅～やすらぎの里～藤倉」を運行	・作成した沿線PR広告をホームページで公開し、沿線施設・店舗等の認知度向上を図ることで新たな顧客層の獲得を図った。 ・利用客の利便性を向上させ、バス利用を促進するため鉄道との接続について見直しを行い、鉄道時刻表を考慮した運行ダイヤの調整を行った。	B	災害等のやむをえない事由以外で運休便が発生した日はなく、事業は概ね計画通り実行されたが、需要減により臨時運行便を削減したため計画通りの年間運行回数は確保できなかった。	A	・令和5年度の収益率と比較し、1%以上の改善が見られた。 （令和5年度：48.0%→令和7年度：56.1%） ・観光需要を考慮した運行回数・運行時間帯・運賃の最適化を図り、沿線自治体と協議を重ねた結果、費用減少に成功し収益率が向上した。 【収益】 令和5年度：42，940千円 →令和7年度：32，000千円 【費用】 令和5年度：89，425千円 →令和7年度：56，994千円	・周辺自治体と協議を重ね、周辺地域を運行するその他系統も含めた地域全体の運行回数・時間帯の見直しを検討し、引き続き観光需要を中心とした旅客の取り込みを図る。
西東京バス株式会社 小岩線「武蔵五日市駅～小岩線」	・「武蔵五日市駅～払沢の滝～小岩」を運行 ・「武蔵五日市駅～やすらぎの里～小岩」を運行	・作成した沿線PR広告をホームページで公開し、沿線施設・店舗等の認知度向上を図ることで新たな顧客層の獲得を図った。 ・利用客の利便性を向上させ、バス利用を促進するため鉄道との接続について見直しを行い、鉄道時刻表を考慮した運行ダイヤの調整を行った。	A	災害等のやむをえない事由以外で運休便が発生した日はなく、事業は計画通り実行された。	C	・令和7年度の収益率が50%未満であった。 （令和7年度：45.7%） ・令和7年度より新たに補助対象となる路線であり、前年度以前の比較値は存在しない。	・周辺自治体と協議を重ね、周辺地域を運行するその他系統も含めた地域全体の運行回数・時間帯の見直しを検討する。 ・経費削減を目的とした車両のダウンサイジングなど、交通モードの見直しも含めた検討を進める。
地方運輸局等における二次評価結果 （関東運輸局）	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。目標・効果達成状況については、概ね目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に務めること。 ・沿線PR広告の公開による認知度向上と新規顧客獲得、乗降実績に基づく系統・時間帯別の増減回、鉄道接続を踏まえたダイヤ見直し、並びに沿線自治体との協議による運行効率化の取組を高く評価する。引き続き関係機関と連携を密に生産性向上の取組を実施することを期待する。 ・広域な交通ネットワークの構築には、都県と市区町村の連携が重要であることから、さらなる連携を図り、引き続き利用状況等の需要動向の把握に努め、利用者が使いやすい地域公共交通の確保・維持が図られることを期待する。						
第三者評価委員会における各委員からの意見	令和7年度地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会における委員による以下の助言は、今後の取組を行う上で必要な観点であり、考慮されたい。 〇公共交通を取り巻く環境は非常に厳しい状況が続いているため、都県と市区町村においてより連携を図っていただくことが重要。 〇利用者は回復しているが収支が悪化している現状において、地域住民の需要動向を把握し、公共交通の位置づけを明確にした上で広域的な計画を検討していくことを期待する。						